



今年の生物多様性に関する国際政策の 主要イベントの総括と今後の展望

生物多様性と森林領域 リサーチマネージャー
高橋 康夫

生物多様性と森林領域 研究員
三輪 幸司

昆明・モンリオール生物多様性枠組（KMGBF）

2050年ビジョン
自然と共生する世界

2050年ゴール

ゴールA
保全

ゴールB
持続可能な利用

ゴールC
遺伝資源へのアクセスと利益配分
(ABS)

ゴールD
実施手段の確保

2030年ミッション

生物多様性の損失を止め反転させるための緊急行動をとり、自然を回復軌道に乗せる

2030年ターゲット

(1) 生物多様性への脅威を減らす

- 1 : 空間計画の設定
- 2 : 自然再生
- 3 : 30by30
- 4 : 種・遺伝子の保全
- 5 : 生物採取の適正化
- 6 : 外来種対策
- 7 : 汚染防止・削減
- 8 : 気候変動対策

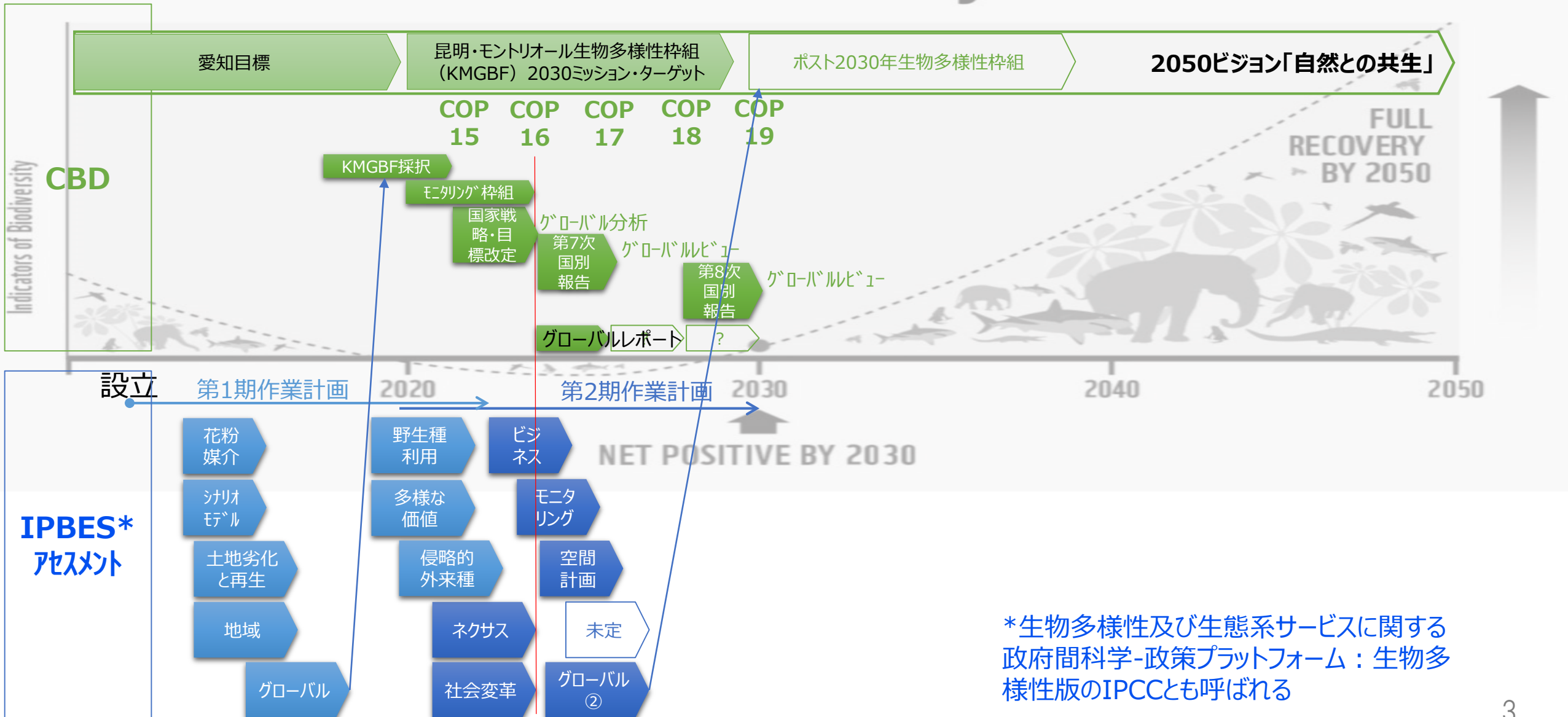
(2) 人々のニーズを満たす

- 9 : 野生種の持続可能な利用
- 10 : 農林漁業の持続的管理
- 11 : 自然の調節機能の活用
- 12 : 緑地親水空間の確保
- 13 : 遺伝資源へのアクセスと利益配分(ABS)

(3) ツールと解決策

- 14 : 生物多様性の主流化
- 15 : ビジネスの影響評価・開示
- 16 : 持続可能な消費
- 17 : バイオセーフティー
- 18 : 有害補助金の特定・見直し
- 19 : 資金の動員（公共・民間）
- 20 : 能力構築、技術移転
- 21 : 知識へのアクセス強化
- 22 : 女性、若者及び先住民の参画確保
- 23 : ジェンダー平等の確保

Nature Positive by 2030



国際・国内の政策への波及

国際
↑
国内



IPBES成果
アセスメントなど



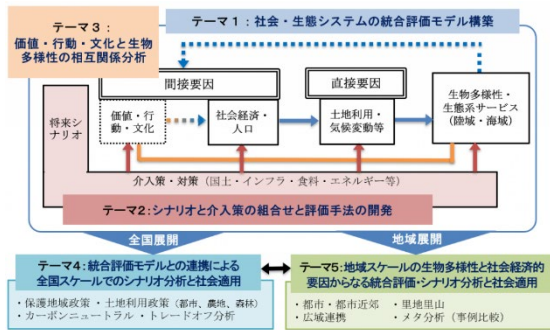
Kunming-Montreal
GLOBAL BIODIVERSITY FRAMEWORK

生物多様性関連国際協定（CBD等）
KMGBF、グローバルレポート等

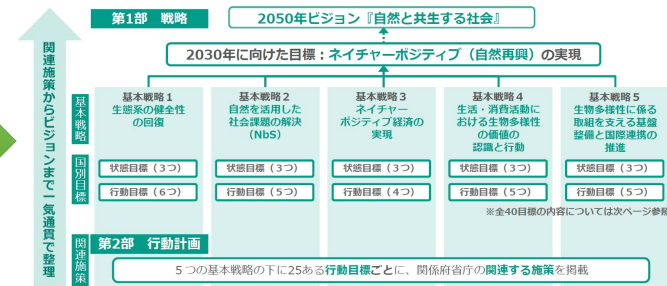


TNFD

民間



生物多様性及び生態系
サービスの総合評価



生物多様性国家戦略（NBSAP）
その他の国内関連政策

科学

政策・実践

COP16の全主要議題とIPBESとの関係

8. 生物多様性国家戦略（NBSAP）と国別目標の改定

9. 遺伝資源のデジタル配列情報

10. レビューメカニズム/モニタリング枠組(指標)

← IPBESモニタリング/空間計画/第2次グローバルアセス

11. 資源動員・資金メカニズム

12. 能力養成・構築、科学技術協力、クリアリングハウスと知識管理

13. 他条約下に設置された国際組織・機関との協力

14. 8(j)条(伝統知識等)と関連規定の実施

15. コミュニケーション、教育と普及啓発

16. KMGBF実施支援に必要な科学技術ニーズ

→ IPBESのアセスメントへのテーマの提案

17. セクター内・間の生物多様性主流化

18. 生物多様性の多様な価値観 ← IPBES価値評価

19. 野生生物の持続可能な管理

← IPBES野生種の持続可能な利用評価

20. 海洋・沿岸・島嶼の生物多様性

21. 侵略的外来種 ← IPBES侵略的外来種評価

22. 生物多様性と健康

23. 植物保全

24. 合成生物学

25. 生物多様性と気候変動

- IPBESの成果に基づく作業計画・ガイダンス
 - (18)生物多様性の多様な価値観
 - (19)野生生物の持続可能な管理
 - (21)侵略的外来種
- IPBES作業計画への要望：汚染、都市、貧困、気候変動のテーマが候補
- CBD-UNFCCC連携とIPBES-IPCC連携
- **積み残し**：再開会合(2025年2月・ローマ)で継続審議：資源動員、モニタリング枠組、資金メカニズム等

➢ IPBESとの連携がますます重要に

非国家主体による KMGBF達成への貢献

(決定COP16/2議題10附属書II)

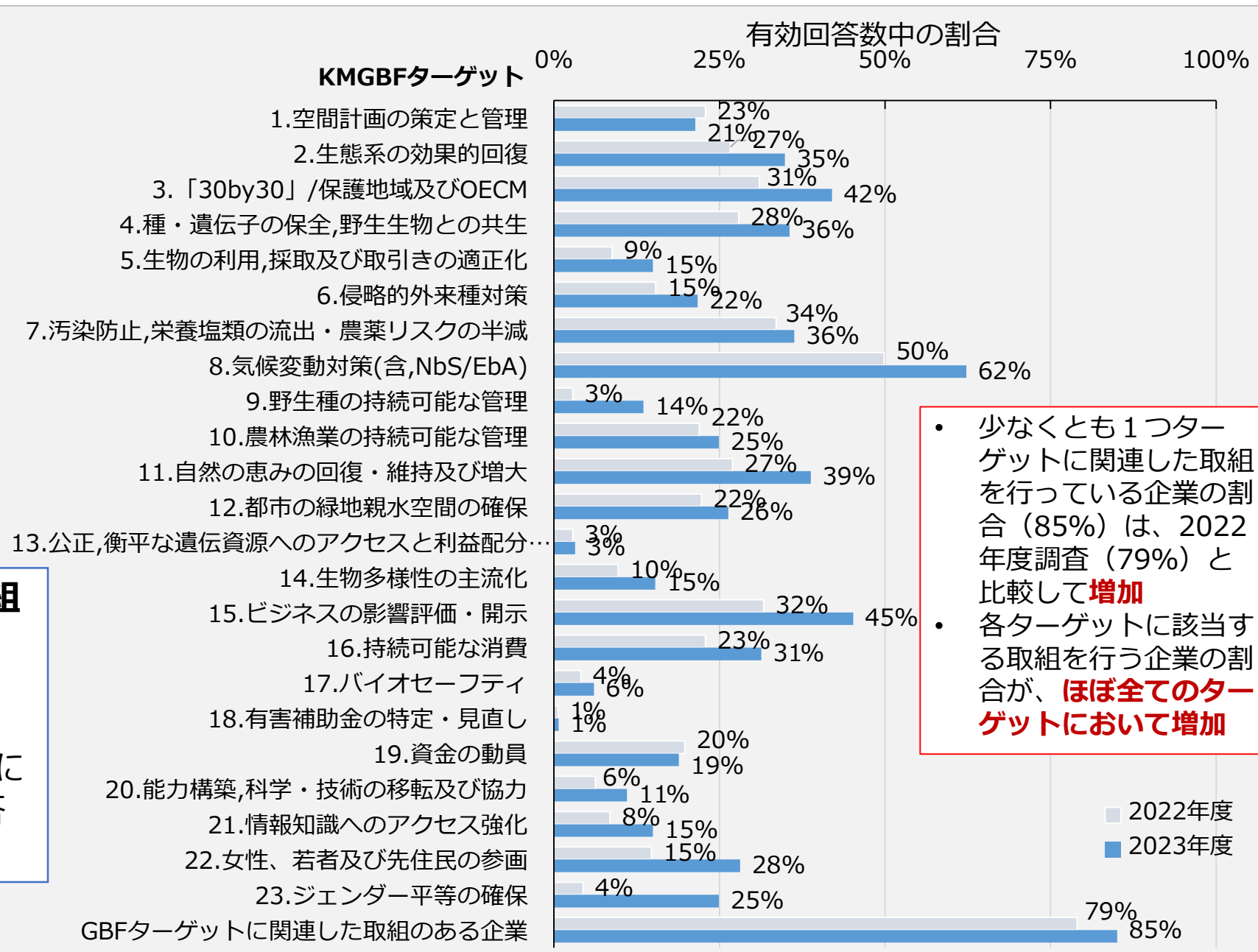
- 「全政府・**全社会**アプローチ」
- 報告事項**：活動名、KPI、該当するKMGBFターゲット・国別目標・ヘッドライン指標、活動の地理的範囲、SDGsへの貢献など
- グローバルレポート**への活用：非政府主体の貢献の追跡メカニズムを今後開発予定

経団連「企業の生物多様性への取組に関するアンケート調査」

- 2022年度326社、2023年度281社が回答
- 各社の生物多様性に関する取組に該当するKMGBFターゲットの回答の集計、KPIも任意回答

➤ 詳しくはこちら：経団連（2024）

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2024/075.html>



IPBES第11回総会（IPBES-11）

12月10日(火)から16日(月)にかけて、ナミビアの首都ウィントフックで開催

主要議題：

- ネクサス評価（生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に関するテーマ別評価）SPM*
- 社会変革評価（生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性2050ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価）SPM
- 第2次地球規模評価
スコーピング文書
- IPCC連携

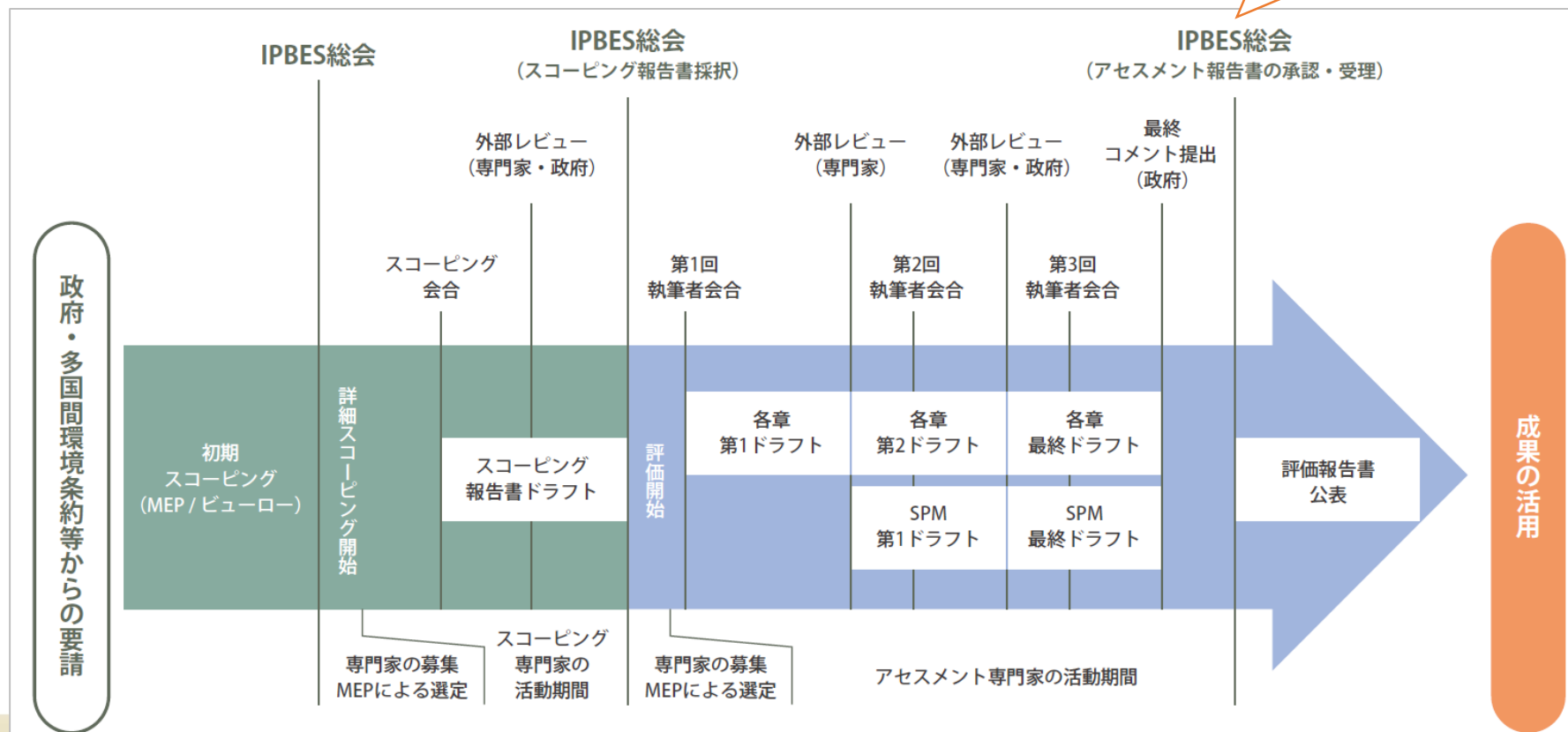
SPM全文を
全会一致で承認

*SPM: Summary for Policy Makers
（政策決定者向け要約）の略。各章から
政策決定者に有用な根拠を抽出した40
ページ程度の文書

IPBESアセスメントのプロセス

出典：環境省（2024）

<https://www.iges.or.jp/jp/pub/ipbespamphletjp/ja>

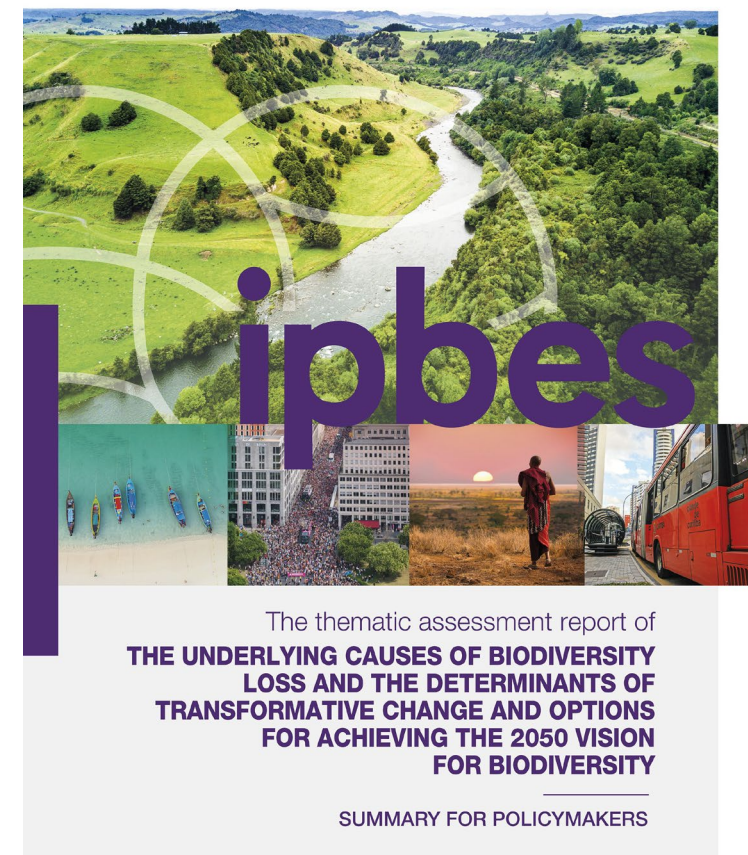




交渉所見：

- ネクサス評価SPM：国益マターに係る数か国の主張により平行線の議論、審議日程を2日延長
- 社会変革評価SPM：最後のプレナリー（全体会合）で、ワーキンググループ承認を経たテキストの修正要求
 - 「企業のデューディリジェンスと貿易協定」等の表現は受け入れられない、**わが国のレッドライン**、メンバー国の権利行使で修正を要求（ブラジル）
 - 「**レッドラインは科学が示すもの**」（エジプト・ルクセンブルク・フランス・ベルギー他）
- IPBES-12（ロンドンで2026年1月開催予定）のビジネス評価SPM承認プロセスへの懸念
 - 科学（知識形成）から合意形成・政策まで、知識のライフサイクルを通じた関与の重要性
 - ユーザーが本体報告書（各章）を読むことの意義

IPBES生物多様性の損失の根本的要因、変革 の決定要因及び生物多様性2050ビジョン達成 のためのオプション（社会変革）に関する テーマ別評価報告書・政策決定者向け要約 （SPM）



IPBES社会変革評価報告書：政策決定者向け要約

- 目的：公正で持続可能な世界に向けた社会変革に関する知識の評価。
- 政策決定者向け要約の構成
 - 17の主要なメッセージ（KM）
 - 34のバックグラウンドメッセージ
 - 前文
 - セクションA：社会変革は急務であり、必要であり、困難、しかし可能である
 - セクションB：社会変革のための戦略と行動
 - セクションC：社会変革を可能にする一すべての人の役割

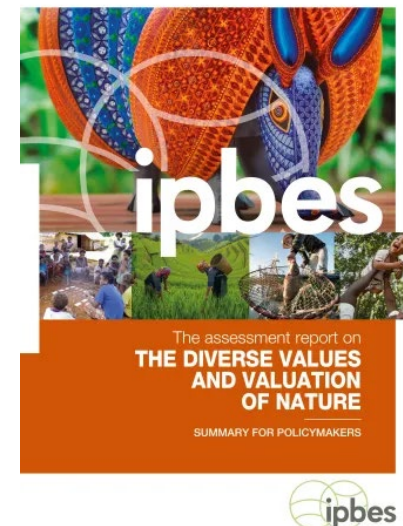
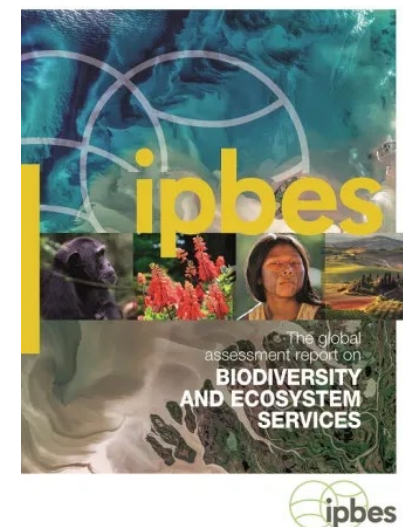
社会変革に焦点を当てた報告書として画期的なアセスメント

IPBES社会変革評価報告書：背景（1）

- IPBES地球規模評価報告書（2019）
 - 生物種の約25%、約100万種が絶滅の危惧。
 - 数十年後にはこれらの種は絶滅の可能性。
 - このような状況を反転させるためには社会変革が必要。
- IPBES価値評価報告書（2022）
 - 市場は過剰搾取、短期的利益、経済成長に価値を置き、非持続可能な自然の利用を促進してきた。
 - 持続可能性に基づいた価値を意思決定の中心に据えるべき。
 - 自然の多様な価値を理解し、それらをバランスよく活用すべき

これまでのIPBES評価報告書の和訳はこちら：

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/ipbes/results>



IPBES社会変革評価報告書：背景（2）

• 自然の様々な価値

• 内在的価値（自然のための自然）

- 人の主体性が入らない
自然・生物固有の価値

• 道具的価値（社会のための自然）

- 人がある目的のための手段、
資源や資産としての自然

• 関係的価値（文化としての自然）

- 人と自然の相互的な関係、
自然の一部としての人間



IPBES社会変革評価報告書:

セクションA：社会変革は急務であり、必要であり、困難、しかし可能

• 地球規模の持続可能性に向けた変革の指針として4つの原則

- 公平と公正：社会変革を公正な方法で設計。人とヒト以外の種にとっても公平で公正。
- 多元性と包摂：様々な価値観、主体、世界観を認識し、尊重
- 尊重と互惠的な人間-自然関係：道具的価値から関係的価値へ
- 適応学習と行動：予期せぬ結果、新たな影響、緊張を察知し、それに継続的に対応

• 克服すべき課題

- 根強い支配関係、特に植民地時代に生まれ、伝播した支配関係
- 経済的・政治的不平等
- 不適切な政策と制度
- 持続不可能な消費・生産パターン、個人の習慣・慣行
- クリーンな技術への限られたアクセスと、統合されていない知識・革新システム

生物多様性の損失と自然衰退の根本的な原因に対処するために、
価値観、構造、慣行の転換が必要

IPBES社会変革評価報告書:

セクションA：社会変革は急務であり、必要であり、困難、しかし可能

- 課題を克服するために、6つの広範なアプローチ
 1. **システム・アプローチ**：変革はシステムのシフトを通じて行われる
 2. **構造的アプローチ**：経済的、文化的、政治的、社会的構造において、持続可能性を促進するようなシフトが起こるときに、変革が起こる；
 3. **内面的変革アプローチ**：変革は、個人の価値観、信念、世界観の転換と、世代内・世代間、人間・非人間の関係の認識を通じて行われ、統合的な行動につながる；
 4. **エンパワメント・アプローチ**：変革は、公平性と持続可能性を重視し、力関係を是正。現在疎外されているグループの主体性と力が主張されるときに起こる；
 5. **知識の共創アプローチ**：変革は、様々な主体（市民社会、先住民族や地域コミュニティ、科学的主体など）が協働して知識を共創するプロセスを通じて支援される；
 6. **科学技術アプローチ**：変革は、科学技術の発見が新しい技術、視点、解決策を提供し、それが社会によって取り上げられ、規模が拡大されたときに起こる。

IPBES社会変革評価報告書: セクションB：戦略と行動

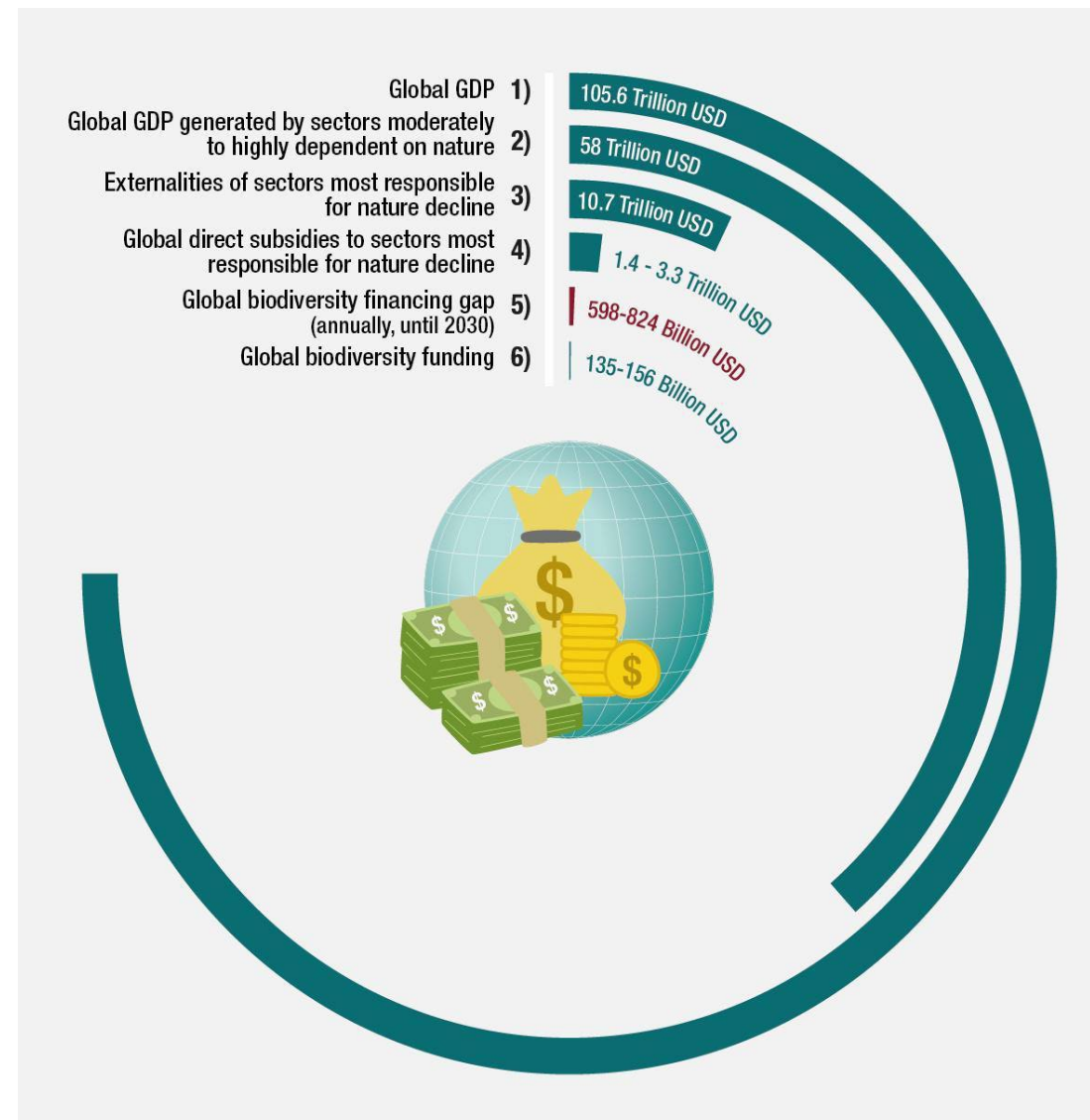
・ 5つの行動戦略

1. 自然と人々にとって価値のある場所を保全・再生（生物文化的アプローチ）
2. 自然衰退の最大の原因となっている部門（農業や畜産業、漁業、林業、インフラ、鉱業、化石燃料部門等）における体系的な変化を推進
3. 自然と公平性のために経済システム（支配的な経済・金融パラダイム）を変革し、私的利益よりも自然と社会的公正を優先
4. 意思決定に多様な利害関係者を関与させ、統合性、包括性、説明責任、適応性を備えたガバナンス・システムに変革
5. 支配的な社会の見方や価値観を変え、人と自然の相互関係を認識し優先

IPBES社会変革評価報告書: セクションB：戦略と行動

2. 自然衰退の最大の原因となっている部門（農業や畜産業、漁業、林業、インフラ、鉱業、化石燃料部門等）における体系的な変化を推進

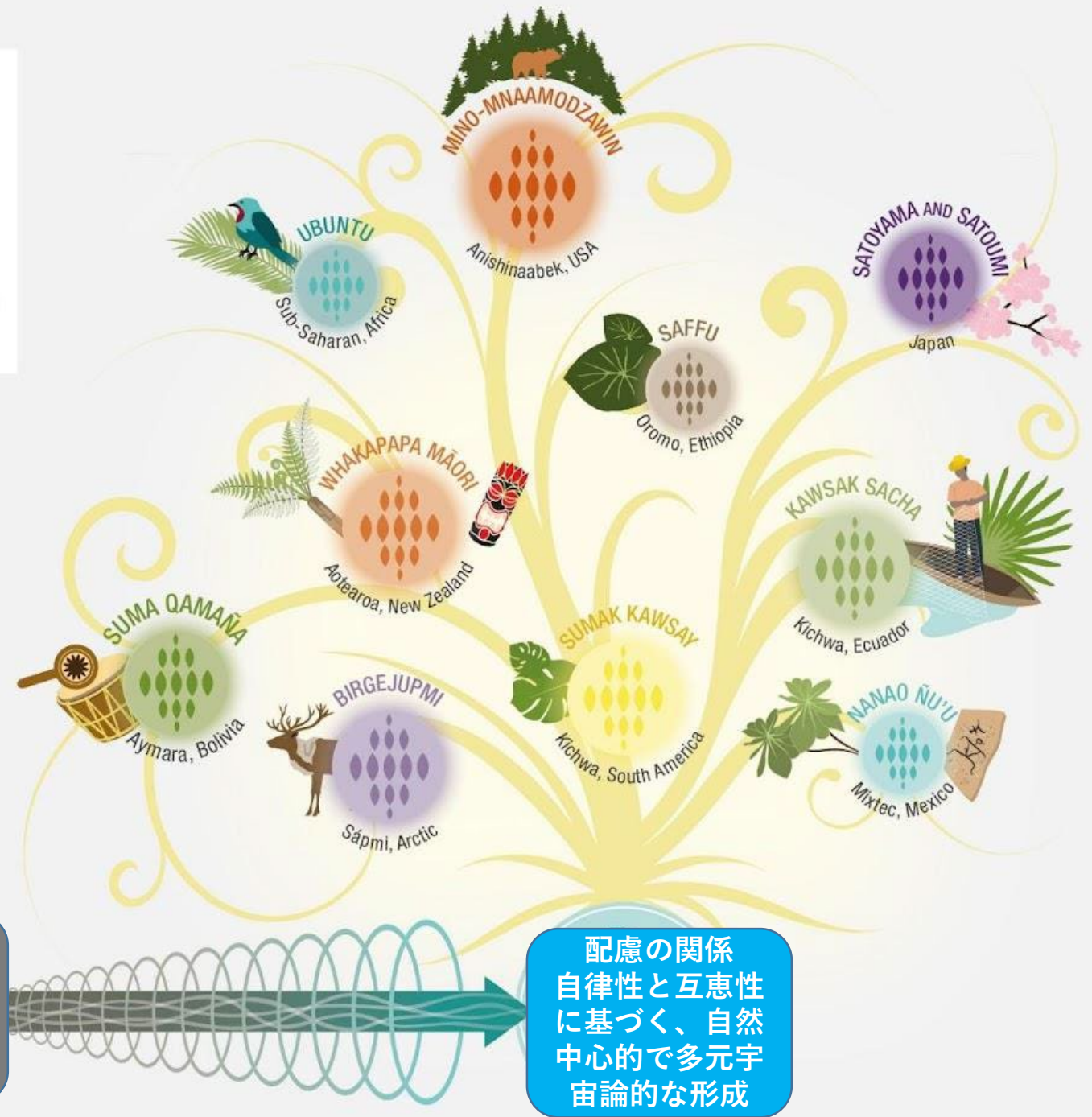
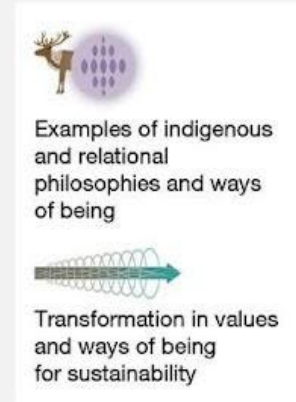
生物多様性に関して使われる資金は保全よりも搾取の一边倒：自然に中・高度に依存している世界のGDP（58兆米ドル）。保全のための資金フローは、その約0.25%（1,350-1,560億米ドル）のみに相当する。



図SPM.7.グローバルな持続可能性の経済状況：相互依存関係と資金ギャップ。 16

IPBES社会変革評価報告書： セクションB：戦略と行動

5. 支配的な社会の見方や価値観を変え、人と自然の相互関係を認識し優先



図SPM.8. 先住民の哲学と関係性のあり方の例

IPBES社会変革評価報告書:

セクション C：社会変革を可能にするーすべての人の役割

- **関係的価値が不可欠**：人と自然の相互依存関係、人間以外の生命体の主体性、ケアの倫理を認識し、社会において、**ポジティブなビジョンを共有し、それを発展させることが特に重要**。
- **多様な主体による協働**：社会変革は**システム全体に及ぶもの**であるため、それを達成するためには、**すべての関係主体とセクター**がビジョンを描き、協働して社会変革に貢献する**社会全体・政府全体のアプローチ**、そして公平と公正の原則を満たすためにバランスの取れた意思決定プロセスが必要である。
- **政府**は自然に利益をもたらす革新的な経済・財政手段を導入することが必要である。
- **市民社会のイニシアチブ**を保護することは、社会変革を支援する。

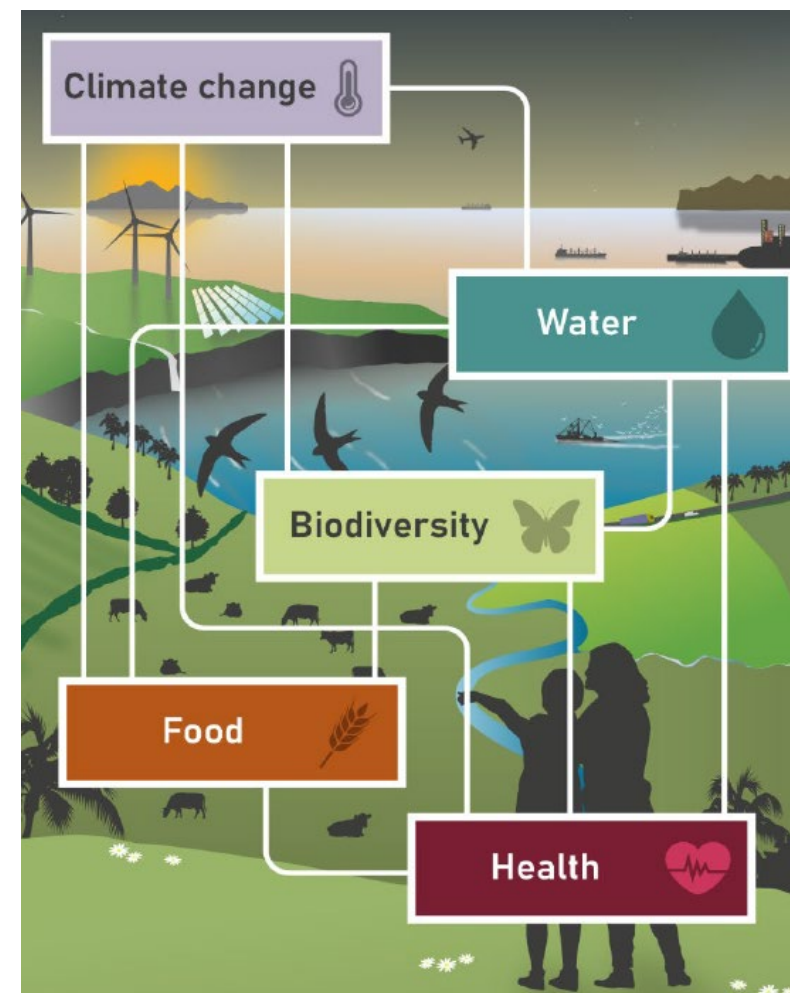
生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に関するテーマ別評価 (ネクサス評価) 政策決定者向け要約 (SPM)

ネクサスとは？

- 2つ以上の要素、セクターまたはシステムの相互関係
- 本評価では生物多様性・水・食料・健康・気候変動を「ネクサス要素」と定義

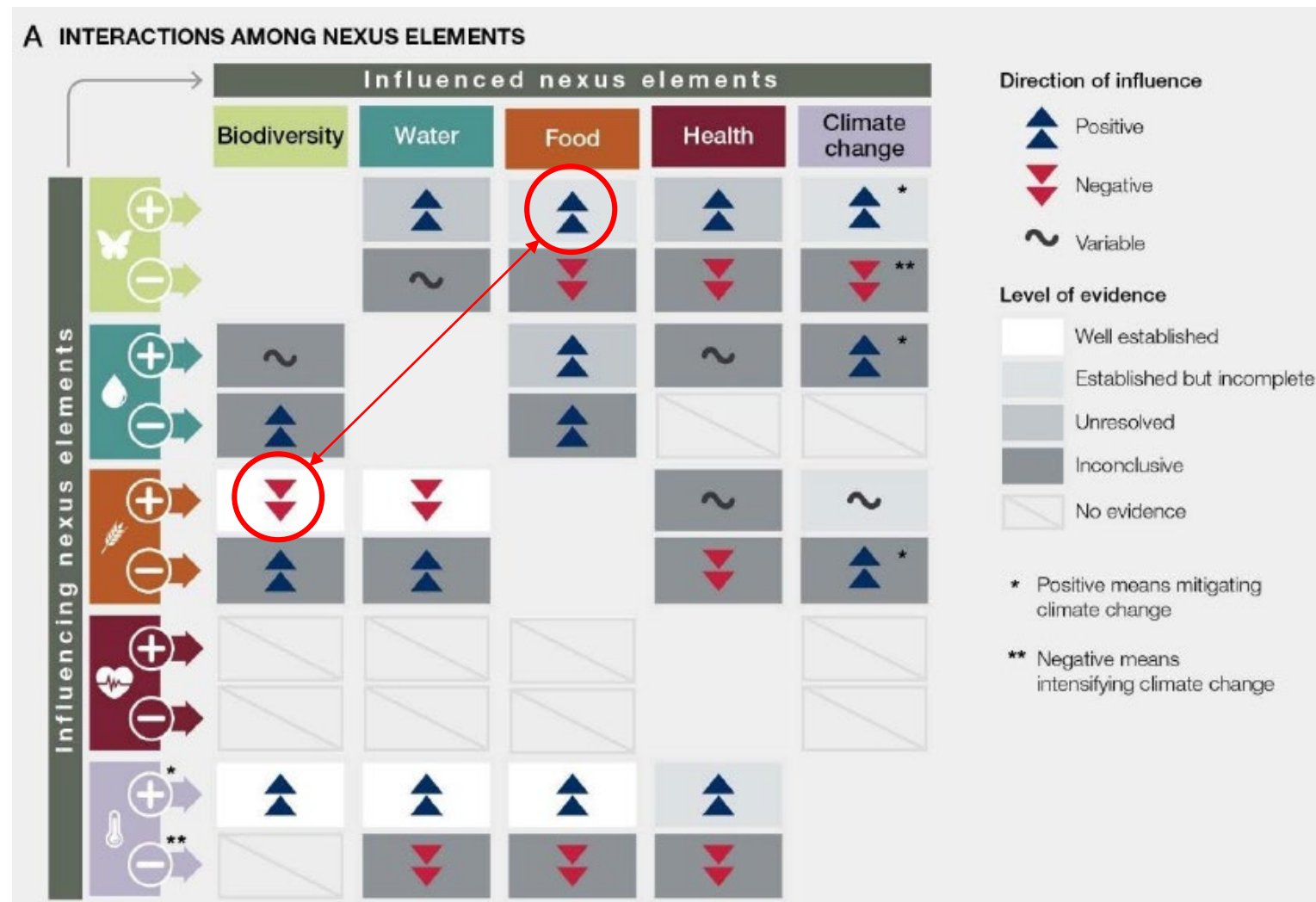
SPMの構成

- A. これまでのトレンド～縦割りの弊害
- B. 将来シナリオ～なりゆき任せの将来と"ネクシー"な将来
- C. ネクサス横断の対応策
- D. ガバナンス、ファイナンスと導入ロードマップ



A. これまでのトレンド

- 生物多様性は水と食料の供給、健康と安定した気候を支え、人類にとって欠かせない生存基盤
- 生物多様性の減少が水・食料・健康・気候変動に悪影響、特に途上国や貧困層
- **「縦割り」対策により事態が悪化：**生物多様性と他のネクサス要素に悪影響のある投資の世界総額は年7兆米ドル



B. 将来シナリオ

- なりゆきの将来**：資源採取の増加とむだ遣い、持続的不可能で衡平でない経済成長、気候変動への非効率な対応など ～対策が10年遅れると対策のコストが2倍に
- ネクサス全体の改善**：生態系の保全、再生と持続可能な利用、汚染の削減、持続可能で健康な食、気候変動緩和・適応など ～SDGsの多くの目標に同時に貢献

A PROJECTED FUTURE IMPACTS ON THE NEXUS ELEMENTS

Nexus archetype	Nexus element					Impacts on each nexus element under each nexus archetype
	Biodiversity 	Water 	Food 	Health 	Climate 	
ネクサス全体の改善	1. Nature-oriented nexus	▲▲	▲	▲	▲	▲▲ Highly positive
	2. Balanced nexus	▲	▲	▲▲	▲	▲ Moderately positive
	3. Conservation first	▲	～	▼	～	▲ Slightly positive
	4. Climate first	▼	～	▼	▲	～ Variable
なりゆきの将来	5. Food first	▼	▼	▲	▼	▼ Slightly negative
	6. Nature overexploitation	▼	～	▼	▼	▼ Moderately negative
						▼ Highly negative

C. ネクサス横断の対応策

- **効果が実証されている対応策のメニュー**
 - 現地の状況に応じた選択
- 10分類71個の対応策：炭素貯留量の多い生態系の再生（森林・土壌・マングローブ）、里山・里海、人獣共通感染症の発生予防など
- 複数の対応策を**束ねて・続けて**実施することでさらに高い効果

D. ガバナンス、ファイナンスと導入ロードマップ

- 縦割りから統合的なガバナンスへの改革
- 少なくとも年4.3兆米ドルの追加投資、ネイチャー・ポジティブな投資のリターンを向上させる新たなビジネスモデルの支援など
- 導入のロードマップ：8つのステップ



IPBES (2024)より一部抜粋
<https://www.ipbes.net/nexus/media-release>

Response option							
Conserve ecosystems	B01	Area-based conservation	●	●	●	●	●
	F01	Halt conversion of intact ecosystems	●	●	●	●	●
	H10	Forest conservation for health	●	●	●	●	●
	B05	Forest landscape restoration	●	●	●	●	●
Restore ecosystems	B06	Restoration of coastal and marine systems	●	●	●	IC/NE	●
	B07	Restoration of inland water systems	●	●	●	●	●
	B08	Rewilding	●	●	●	●	●
	F02	Restore soil health	●	●	●	●	●
	H08	Mangrove conservation and restoration for health	●	●	●	●	●
	C04	Wetland conservation and restoration	●	●	●	●	●
	C13	Restoration of blue carbon ecosystems	●	●	●	●	●
			●	●	●	●	●
			●	●	●	●	●
			●	●	●	●	●
Integrate planning and governance	B09	Integrated landscape and seascape approaches	●	●	●	●	●
	B12	Land and sea planning	●	●	●	●	●
	W02	Integrated water infrastructure	●	●	●	●	●
	W08	Transboundary water cooperation	●	●	●	NE	●
	W09	Groundwater governance	●	●	●	●	●
	W13	Water-sensitive urban infrastructure	●	●	●	●	●
	W15	Community water management	●	●	●	●	●
	F12	City region food systems	●	●	●	●	●
	H12	Integrated watershed-health interventions	●	●	●	●	●
	B02	Urban nature-based solutions*	●	●	●	●	●
	C14		●	●	●	●	●
	H11	Biodiversity management for zoonoses	●	●	●	●	●

もっと詳しく知りたい方は

- 環境省主催のIPBES-11結果報告会：2025年1月29日(水)13:00～
https://iges-jp.zoom.us/webinar/register/WN_kfPYKLYYSxyxcFhMKcU1NA
※詳しくは1月上～中旬に環境省から報道発表予定
- ネクサス評価に関するIPBESの報道発表（英語）：
<https://www.ipbes.net/nexus/media-release>
- 社会変革評価に関するIPBESの報道発表（英語）：
<https://www.ipbes.net/transformative-change/media-release>
- 社会変革評価・ネクサス評価の本体報告書とSPM和訳は2025年度上半期に
公開予定（未定）

ランドスケープアプローチとは

- 社会・文化と生態系の関係を統合的に捉えており、多様な利害関係者の関与や地域の主体性といった要素を重要視する。
- 日本人が里地、里山又は里海とみなしている二次的自然地域
 - 人と自然が調和し、生物多様性の維持に貢献すると同時に、人々の暮らしと豊かさを持続的に支える場所



その他の世界中におけるSatoyama・Satoumi保全活動の事例：
<https://sdm.satoyama-initiative.org/projects/>（英語のみ）



アルゼンチン・アルティプラノ高原におけるラクダ科動物の繊維の活用と先住民の生計手段向上